

木材ジャーナル 名古屋・せぶ

令和元年7月号 No.146

名古屋木材組合
名古屋港木材産業協同組合

平成30年度 森林・林業白書

森林と林業に関する動向と施策をまとめた「平成30年度 森林・林業白書」が、令和元年6月7日に閣議決定され、平成30年度の森林及び林業の動向と平成30年度に講じようとする施策について公表された。

「平成30年度 森林・林業白書」は、この一年間における森林・林業の動向や主要施策の取組状況を中心に国民の関心と理解が深まることをねらいとして作成されており、下記の6つの項目とトピックスとで構成されており、今回はトピックスの概要を紹介します。

第Ⅰ章 今後の森林の経営管理を支える人材
第Ⅲ章 林業と山村（中山間地域）
第Ⅴ章 国有林野の管理経営

第Ⅱ章 森林の整備・保全
第Ⅳ章 木材産業と木材利用
第Ⅵ章 東日本大震災からの復興

トピックス

1. 平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震による災害の発生と復旧への取組

平成30年7月豪雨の発生直後の7月12日に学識経験者等からなる「平成30年7月豪雨を踏まえた治山対策検討チーム」を設置して、今回の山地災害の実態把握や山腹崩壊の発生メカニズムの分析・検証等を行いました。11月には、北海道胆振東部地震などの各種災害への対応を含めた今後の事前防災・減災に向けた効果的な山地対策の在り方について、「中間取りまとめ」として公表しました。また、こういった相次ぐ自然災害の発生を受けて、昨年12月に「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」が取りまとめられ、さらに、これを踏まえて改定された「国土強靱化基本計画」に基づき、地方自治体のみならず、地域住民や地域コミュニティの関係者等と一丸となって、事前防災・減災に向けた「国土強靱化」の取組を推進していきます。

2. 国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）

2018年12月にポーランド・カトヴィツェにおいて国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）が開催されました。COP24では、パリ協定の実施指針が採択され、2020年以降のパリ日本の協定の本格運用に向けたルールが整備されました。実施指針では、排出削減目標の設定並びに進捗及び達成状況の把握に際して、これまでに気候変動枠組条約や京都議定書の下で使用してきた方法を用いて温室ガスの排出・吸収量を計上することが認められました。

3. ますますすんでいく非住宅・中高層建築物の木造化・木質化の取組

経済界を中心に、貴重な地域資源である森林を活用し、これまで木材があまり使われてこなかった非住宅、中高層建築物の木造化・木質化を進める様々な取組が進行しています。

我が国では古くから、木材を建築、生活用品、燃料等の様々な用途に使ってきました。木材は、調湿性に優れる、断熱性が高い、リラックス効果があるとともに、再生可能な省エネ素材でもあります。我が国の人工林の多くが本格的な利用期を迎えている現在、木材の利用を推進し、「伐って、使って、植える」という形で資源の循環利用を進めることは、森林の有する多面的機能の発揮に加えて、循環型社会の形成や地域経済の活性化にも資するものです。

4. 森林・林業・木材産業と持続可能な開発目標（SDGs）

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）は、2015年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」（2030アジェンダ）にふくまれるもので、持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成されています。

5. 「第69回全国植樹祭」が福島県で開催

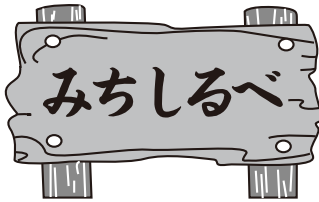
全国植樹祭は、国土緑化運動の中心的な行事であり、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、両陛下によるお手植えや参加者による記念植樹等を通じて、国民の森林に対する愛情を倍うことを目的として、毎年春におこなわれています。

平成最後の全国植樹祭となる第69回全国植樹祭は、平成30年(2018)年6月10日、「育てよう 希望の森を いのちの森を」を大会テーマとし、福島県南相馬市原町区地内の海岸防災林整備地で開催されました。

6. 「農林水産祭」における天皇杯等三賞の授与

林業・木材産業の活性化に向けて、全国で様々な先進的取組が見られます。このうち、特に内容が優れていて、広く社会の賞賛に値するものについては、毎年、秋に開催される「農林水産祭」において、天皇杯等三賞が授与されています。

“いま、木に本気” 暮らしに活かそう木の良さを



木材業界の明るい未来が見えた

名古屋港木材産業協同組合
理事長 服部 伸一

令和元年6月21日から22日「第64回日本木青連全国会員愛知大会」が700名以上の参加者を迎えて当地名古屋にて開催されました。

日本木青連は木材業にかかわる原則45歳以下のメンバーによって構成される全国組織で60年以上の歴史があります。日本木青連の最大のイベントである全国会員大会は開催地を移し毎年1回盛大に行われます。全国的に木材業者数が減少し続けているだけに縮小した業界を印象づけるものにならないか正直心配していましたが、蓋を開けてみれば、先進的な内容と愛知県の若手メンバーによる非常に行き届いた大会運営や爽やかなもてなしに感銘を受けるとともに私自身が逆に若手木材人から学ぶ点多々ありました。

実は私も21年前に鈴木龍一郎さんが木青連の会長をされていた時に愛知県で行われた全国大会の実行委員長に指名をいただき、県下各会団の仲間や全国の役員と準備をしてきた経験があります。

友松実行委員長はじめ現役の皆さんと21年前の自分の姿（記憶）が重なり感慨深いものがありました。しかしながら、今回の全国大会を大成功に導いた皆さんの企画力や振る舞いは私が実行委員長をした愛知大会の時よりずっと完成度が高く、感服させられるものでした。

鈴木興太郎会長をはじめとする執行部のリーダーシップはもとより会場近くでプラカード持って道案内をするメンバーや臨機応変な対応で受付を行っていたメンバーなど一人一人の対応はてきばきと、自信に満ちたものでした。

この大会の成功が私にとって木材業界の明るい未来を確信させたといっても過言ではありません。昨年の名古屋西部木材港開港50周年事業で現経営者世代の個性的で多彩な人材を再確認できましたが、またその次の世代にまで脈々とつながる人的豊かさは私たち業界ならではです。

青壮年会の皆さん。仕事をしながらの大会準備は決して楽ではなかったはずですが一緒に頑張った仲間との友情は将来の皆さんの夫々の宝物になるばかりではなく、次世代の当地区木材業界の財産になるはずです。

◆ 合縁木縁 ◆

「ラジオ体操で元気に」

3年ぐらい前からラジオ体操をしています。「あーたーらしいあさがきた」の歌が流れてきて、ラジオ体操の準備に入ります。いいのかどうかはわかりませんが、私は1キロの鉄アレイを左右の手に持ちラジオ体操をします。ストレッチの際に体が良く伸び気持ちがいいのです。

ほぼ毎日繰り返していると、その日の体の調子が分かってきます。体調が悪い時は、リズムよく行うことが難しく、テンポが速くなるようです。子供の時、体育の授業や夏休みの朝集まってラジオ体操をしたことを思い出します。

その頃は適当にやっていたのですが、しっかりやってみると難しいことに気づきます。

ちょっと興味がわいたので、ラジオ体操を調べてみました。

大正の終わりころ、日本人の平均寿命は男女とも40歳代で主に肺結核や伝染病でなくなる人が多く、政府が国民の健康を保つためにアメリカやドイツのラジオ体操を基に体操を考案され、昭和天皇即位を祝う事業としてラジオ体操を提案されました。

現在のラジオ体操第1には13の動きがあり、血液循環、筋トレ、柔軟の効果があります。テレビでは、椅子に座りながらのラジオ体操もあり、老若男女問わず誰でも行うことを目的とした体操をみんなで行うことで、協調性が生まれるという心にも良い効果があるそうです。また体操を行うときのコツは、一つ一つの動作を大きく見せる様に体を動かすと効果が大きくなるということです。

各職場でも始業時に行われている所もあると思いますが、コミュニケーションをとったり、仲間の表情や動きで健康管理や事故防止につながっているそうです。

継続は力なり。これからも元気に続けていきたいなと思う今日この頃です。

今回は、丸五木材(株)代表取締役 内藤慎亮氏にお願いします。

木場すずめ

『歴史から学ぶこと、気づくこと』

数年前「BC1177」、「1491」、「1493」というタイトルの本が出版されましたが、これだけで内容が判った方は、かなり歴史に詳しい方だと思います。私も判らなかったのですが、紹介文で納得して購入しました。

特に「1493」は、1492年にコロンブスが、北アメリカ（正確には西インド諸島）を発見した後の、南北アメリカと旧大陸の変化に興味ある項目に絞って見解を書き記した本です。著者はジャーナリストなので、歴史書ではありませんが、様々な専門家の論文や取材を通して目から鱗の内容を展開しています。

「1491」では、数万年前に、ベーリング海峡の氷が溶けて、アメリカ大陸と旧大陸がほとんど没交渉となり、独自に発展してきました。推定でしか判りませんが、人口は数千万人、なじみの有る国、初めて知った様々な王国、集団が形成され、攻防を繰り返してきたことなどが紹介されています。

「1493」のメインテーマはコロンブス交換と表現される微生物から昆虫、植物、動物、家畜、人間にいたるまでの様々な接触、移動による劇的な変化を様々な分野で述べています。まずは病原菌による大幅な人口減少、それを補う為の継続的な移民、後には黒人を代表とした奴隷売買、その主な供給側は黒人であったこと、死亡した人もいたが、逃亡して独自のコミュニティを作り上げていった人々も多かったようです。

タバコとゴム、砂糖の消費と生産地の急速な広がり、生産量の増加は、目を見張るような発展をしました。なかでも食品、トマト、とうもろこし、ジャガイモの広がり、どこが原産地かわからないほど世界中に広がっています。一番大きな変化は、様々な人と物の移動で、世界中の環境が、かなりの割合で均質化してきていることです。現代に生きる我々は、この環境の中でどの様に生きていけばいいのか、考えさせられた本でした。

お知らせ

☆☆☆ 飛島・弥富地区一斉清掃が実施されました ☆☆☆
皆さんご協力ありがとうございました。

飛島地区 (令和元年 5月24日(金))

呼びかけ企業232社
名古屋港管理組合職員41名が参加
可燃ゴミ 300Kg
不燃ゴミ 430Kg
プラスチックゴミ 330Kg
合計1,060Kg (H30秋 1,610Kg)

弥富地区 (令和元年 5月28日(火))

呼びかけ企業125社
名古屋港管理組合職員10名が参加
可燃ゴミ 440Kg
不燃ゴミ 240Kg
合計680Kg (H30秋 630Kg)

★★★ 令和元年6月16日(日) 飛島村親子ふれあい木工教室が開催されました ★★★
詳細は、木材ジャーナル9月号に、稲生委員の「木場すずめ」に掲載予定です。

☆☆☆ 西部臨海安全ニュース ☆☆☆

県内で自動車盗が増加しています

愛知県内における自動車盗被害は、5月末現在で346件発生し昨年同期より20件増加しています。
特徴として、プリウス、ランドクルーザー、レクサスRXといった車種に被害が集中しています。

【防犯上の注意点】

- ・すぐ戻るからとカギをつけたまま車を離れない
- ・警報装置、ハンドル固定器具等の防犯器具を活用する
- ・自宅内でも車のスマートキーは缶等に入れて保管する

◆ 広告コーナー



「プレカット」と「木工機械」の
平安コーポレーション

〒431-2103 静岡県浜松市北区新都田1-5-2

私たちのプレカットテクノロジーは、
人と住宅の未来のために
磨かれているのです。

Precut & Technology
MIYAGAWA®

宮川工機株式会社

本社 〒441-8019 愛知県豊橋市花田町字中ノ坪53
TEL.(0532)31-1251(代) FAX.(0532)34-1956
東京営業所(本事業所はISO9001:2000認証取得の組織ではありません)
〒135-0016 東京都江東区東陽5丁目15の6
TEL.(03)3647-2140(代) FAX.(03)3647-2184
●資料ご希望の方は、宮川工機(株)営業部まで



発行 名古屋木材組合
発行者 西垣洋一
〒460-0017 名古屋市中区松原2-18-10
TEL <052> 331-9386
FAX <052> 322-3376
【編集】名古屋木材組合広報委員会

発行 名古屋港木材産業協同組合
発行者 服部伸一
〒490-1444 海部郡飛島村木場1-74
TEL <0567> 57-2017
FAX <0567> 57-2018
【編集】名古屋港木材産業協同組合広報委員会